

出穂期後 20 日間の平均気温や品種と玄米品質の関係

福島県農業総合センター 作物園芸部 稲作科

1 部門名

水稻－水稻－品種

2 担当者名

鈴木寛人、小森秀雄、新妻和敏、鈴木幸雄

3 要旨

近年、水稻の出穂期が前進し登熟期間が高温条件となる年が発生しており、白未熟粒等の増加により、県産米の品質の低下が問題として顕在化してきている。

そこで、過去の作柄解析試験結果を基に、夏季高温年における品質低下の品種間差や、登熟期間の気象条件が玄米品質に及ぼす影響を調査した結果、本県育成品種の高温登熟耐性は「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」よりも高い傾向が見られた。

- (1) 出穂期後 20 日間の平均気温が 26°C を超えると白未熟粒が顕著に増加した (図 1)。
- (2) 作柄解析試験では「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」と比較し、「天のつぶ」、「福笑い」の方が白未熟粒は少ない傾向が見られた (図 1)。

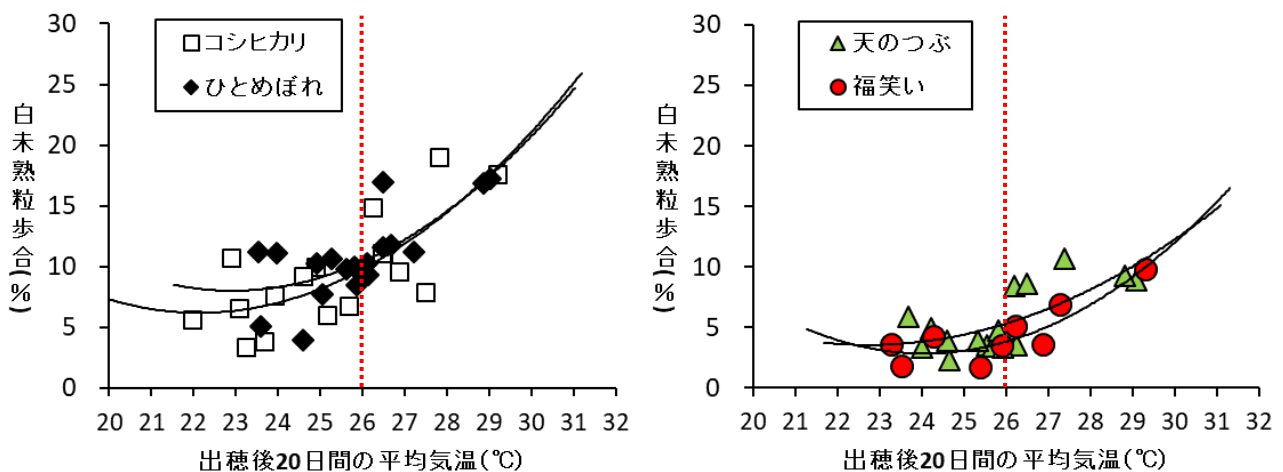


図 1 出穂後 20 日間の平均気温と白未熟粒歩合の関係

- ※ 1) 作柄解析試験 (福島県農業総合センター本部 2009～2023 年、会津地域研究所 2019～2023 年)、コシヒカリ n=17、ひとめぼれ n=18、天のつぶ n=16、福笑い n=9。
- ※ 2) 玄米品質は穀粒判別器 (サタケ社) を用いて判定した。篩目 1.7mm。
- ※ 3) 高温登熟性基準品種: コシヒカリ「中」、ひとめぼれ「中」。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～5 年度
- (2) 研究課題名 新品種・新技術等開発促進事業
(福島県と JA グループ福島による共同事業)

5 主な参考文献・資料

なし